

## 第7章 低炭素社会の将来都市像と地球温暖化に対する取り組み

### 1. 低炭素社会の将来都市像

#### (1) 低炭素社会とは

二酸化炭素の排出が少ない社会のことで、地球温暖化の緩和を目的として、その原因である温室効果ガスのうち、大きな割合を占める二酸化炭素の排出を抑制する社会です。

#### (2) 市の上位関連計画に見る低炭素社会のキーワード

低炭素社会の将来都市像を検討するにあたって、宜野湾市の上位関連計画にみられるキーワードの整理を行います。

##### 1) 第四次宜野湾市総合計画基本構想・前期基本計画（平成23年9月）

キーワード1：循環型社会の構築

キーワード2：自然環境や地球温暖化に配慮した持続発展可能な都市

##### 2) 都市計画マスタープラン（平成16年10月）

キーワード1：都市環境と自然環境が調和

キーワード2：省エネルギー・資源循環型のまちづくり

#### (2) 都市像

本計画で定める都市像とは、総合計画や都市マスタープランなどで示す総合的な都市像ではなく、地球温暖化対策として「あるべき都市の姿」をイメージするものです。

また、本市の温室効果ガス削減に効果的な対象は、市民や事業所へのアプローチが重要になり、これら主体を想定した都市像が求められます。

低炭素社会は、炭素の発生源を抑制し吸収源を増やす都市形成を目指すものです。これを踏まえ、第四次総合計画や都市マスタープランに示されているキーワードから、地球温暖化を防止する都市像を次のように設定します。

**一都市と自然が調和した、省エネルギー・循環型環境都市一**

また、地球温暖化対策を実施するには、それぞれの主体的な取り組みが求められることから、サブタイトルを次のように設定します。

**一市民・事業所・行政みんなで取り組む二酸化炭素排出の少ないまち一**

## 2. 低炭素社会実現に向けての取り組み方針

低炭素社会の実現に向けては、二酸化炭素の主な発生源である民生家庭、民生業務、運輸部門の取り組みが重要となります。また、地球温暖化対策は、それぞれの主体的な取り組みが不可欠であることから、各主体別の取り組みを整理します。

### (1) 環境に優しいライフスタイル〔市民〕

本市は、全国や県と比べ市民（民生家庭等）による二酸化炭素排出量が多く、市民のライフスタイルの改善が目標達成のカギとなります。このため、家庭における節電や省エネ家電への買い替え、自動車利用の抑制やエコドライブの実施及びエコカーへの買い替え、ゴミの減量化、再生可能エネルギーの導入等への取り組みを促進します。

### (2) 環境にやさしいビジネススタイル〔事業所〕

民生家庭に次いで、民生業務の二酸化炭素排出量が多く、事業所に対するビジネススタイルの改善が求められます。なお、本市の事業所は規模が小さいことから、取り組み内容としては市民の取り組みと類似しています。

一方、近年の動向としては事業所の規模が大きくなりつつあることから、これら事業所にも配慮した取り組みを促進します。

### (3) 低炭素社会のまちづくり〔行政〕

行政は、自らが率先して地球温暖化対策のモデルとなる取り組みを実施するとともに、市民や事業所に対し地球温暖化対策に関する普及・啓発を行います。また、再生可能エネルギーの導入等市民や事業所の温暖化対策を支援するとともに、公共交通の充実など交通体系を見直し車依存社会の改善を図ります。更に、既存緑地の保全や市街地内の緑地創出により二酸化炭素の吸収源を確保し、自然豊かな環境都市の実現を目指します。

地球温暖化の問題は、一人一人の意識の改革が不可欠であることから、これらの情報発信を行うとともに、地球温暖化を含めた環境教育の充実に取り組みます。

なお、本県においても、人口減少時代はすぐ目の前にきています。新たな都市形成が行われる普天間飛行場跡地においては、そのような時代に対応したまちづくりとして、低炭素都市の実現が求められます。